

気象と農業・環境情報セミナーのご案内

- 北海道農業の気象情報による支援システムと将来展望 -

昨年 11 月に日本気象学会北海道支部の創立 60 周年を記念して「北海道の気象と農業」が発刊されました。同書では、全国の耕地面積の 1/4 に相当する 116 万 ha の耕地が存在し、農業の粗生産額の 12% を占める北海道が今後大規模な農地で効率的に営農していくために農業気象情報の先進地となり、人工衛星や航空機によるリモートセンシング技術を利用しインターネットを介して気象情報を高度に活用している現状等が紹介されています。そこで、この度この本の執筆者の中から、北海道立総合研究機構が 2030 年代を対象に道内の主要な農作物の収量や品質がどう変わるかを予測した研究成果を基に、温暖化による影響に対応するためどのような備えが必要なのかを北見農試の中辻氏お話をいただきます。また日本気象協会が開発した農業団体会や農業者が手軽に予察を利用できる新しい営農支援システム「てん蔵」について開発に携わった谷口氏に、前日本農業気象学会北海道支部支部長で北海道大学大学院教授の平野氏には地球温暖化の抑制という観点から森林などの陸上生態系により二酸化炭素の吸収の観測結果と今後の展望についても伺います。皆様方におかれましてはご多用の折とは存じますが、多数ご参加賜りますようお願い致します。

記

日 時：平成 25 年 7 月 16 日（火）13：30～16：00

会 場：かでの 2・7 10F 1050 会議室

〒060-0808 札幌市北区北 2 条西 7 丁目 かでの 2・7 TEL 011-204-5100

【プログラム】

13：30～14：20

「気候変動予測に基づく将来の北海道農業について」

講師：北海道立総合研究機構 北見農業試験場 中辻 敏朗氏

1989 年北海道大学農学部農芸化学科卒、道立天北農試、(独)農研機構中央農研、上川農試、中央農試を経て 2013 年から現職。<専門> 土壌学 <これまでの研究内容> 環境保全型農業のための土壌・施肥管理、硝酸性窒素による地下水汚染の防止、地球温暖化の作物生産への影響評価。

14：20～15：10

「気象情報を用いた営農支援システムについて」

講師：日本気象協会北海道支社 主任技師 谷口 秀路氏

平成 4 年秋田大学大学院教育学研究科修了、同年 4 月(株)デービーソフト、平成 7 年財団法人日本気象協会北海道本部技師、平成 17 年日本気象協会北海道支社主任技師、平成 22 年全国企画営業・農業チームプロジェクトマネージャ。

15：10～16：00

「陸上生態系による二酸化炭素の吸収」

講師：北海道大学大学院農学研究院教授 平野 高司氏

プロフィール

1986 年北海道大学大学院農学研究科農業工学専攻修士課程修了、同年 4 月(財)日本気象協会技師、1996 年大阪府立大学農学部助教授、1998 年北海道大学農学部助教授、2006 年より現職。2001 年より(独)国立環境研究所客員研究員、2006 年より JapanFlux 運営委員長。前日本農業気象学会北海道支部支部長。

参加費：一般 3,000 円、産学官・GIS 研究会会員・官公庁職員 2,000 円

参加費振込先：北洋銀行 本店営業部 (普)1822587 北海道産学官研究フォーラム宛て

主催・連絡先：北海道産学官研究フォーラム/北海道 GIS・GPS 研究会(担当 藤原)

〒007-0803 札幌市東区東苗穂 3 条 1 丁目 2-7-105

TEL:011-787-7650 FAX:011-787-7655 E-mail: fuji@kirari.com

お申込みは、7 月 12 日(金)までに下記事項をご記入のうえ FAX または E-mail をお願い致します。

【参加申込書】

平成 25 年 7 月 16 日(火)の「気象と農業・環境情報セミナー」に参加します。

所属名		部署・役職		氏名	
住所		Tel		Fax	
				E-mail	

■個人情報保護について

お申込の際にご登録いただきましたお名前、所属、連絡先については、本セミナーの出席登録にのみ使用します。ご登録いただきました個人情報につきましては、本研究会が厳重に管理いたします。